

地域の危険度マップ

荘川地域

危険度マップ・全壊率 凡例

- 危険度1 0%以上～ 3%未満
- 危険度2 3%以上～ 5%未満
- 危険度3 5%以上～ 7%未満
- 危険度4 7%以上～10%未満
- 危険度5 10%以上～20%未満
- 危険度6 20%以上～30%未満
- 危険度7 30%以上

「危険度マップ」の見方

「危険度マップ」とは、裏面の「揺れやすさマップ」で示した強さの地震が起きたとき、建物の被害予想を「危険度」として表示したものです。地図上には、建物が存在するメッシュ（約50m四方）についてのみ着色しています。

非常持ち出し品を用意しましょう

●被災地に救援物資が届くまでには3日かかるといわれています。持ち出し品はこの3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

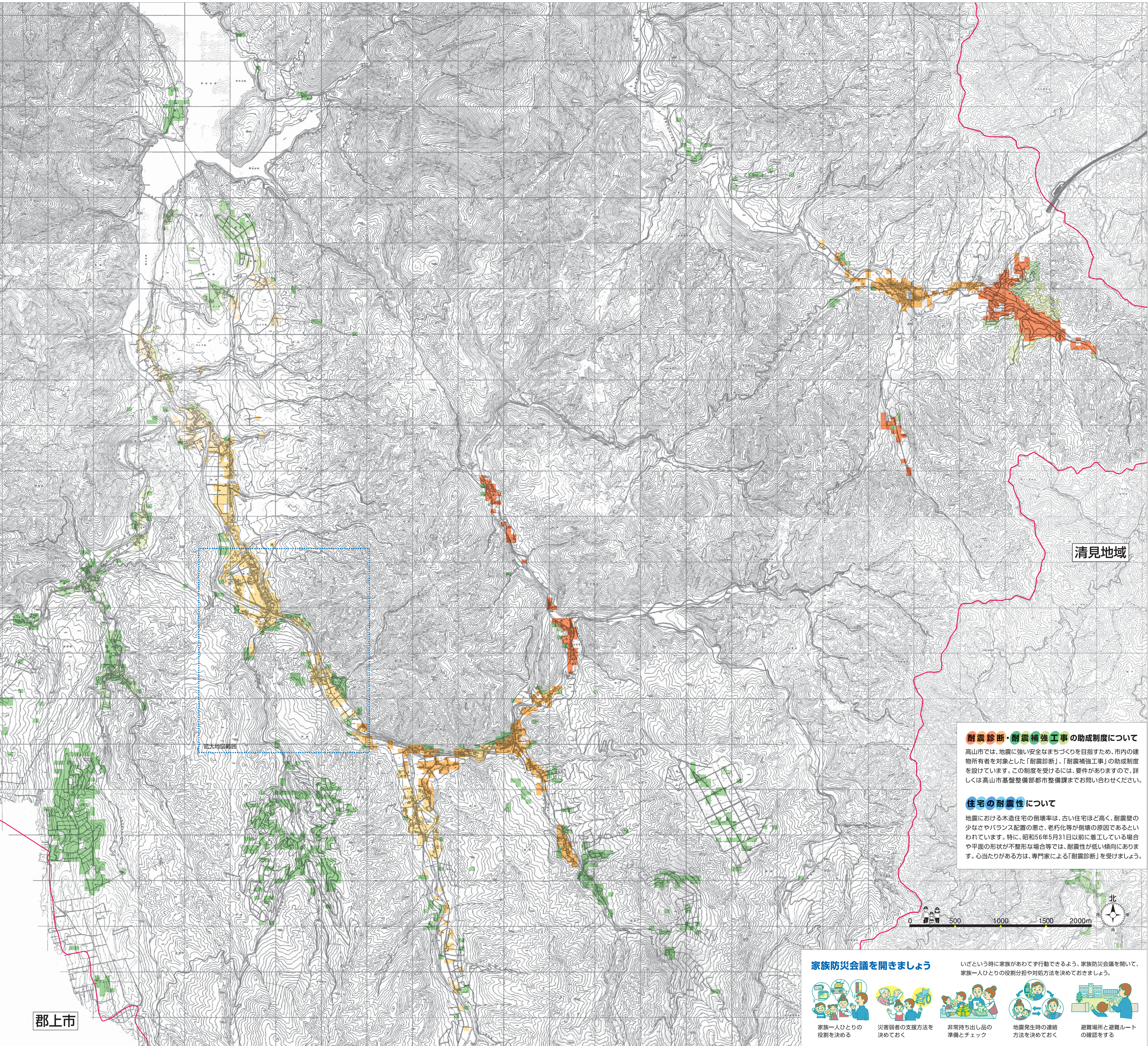
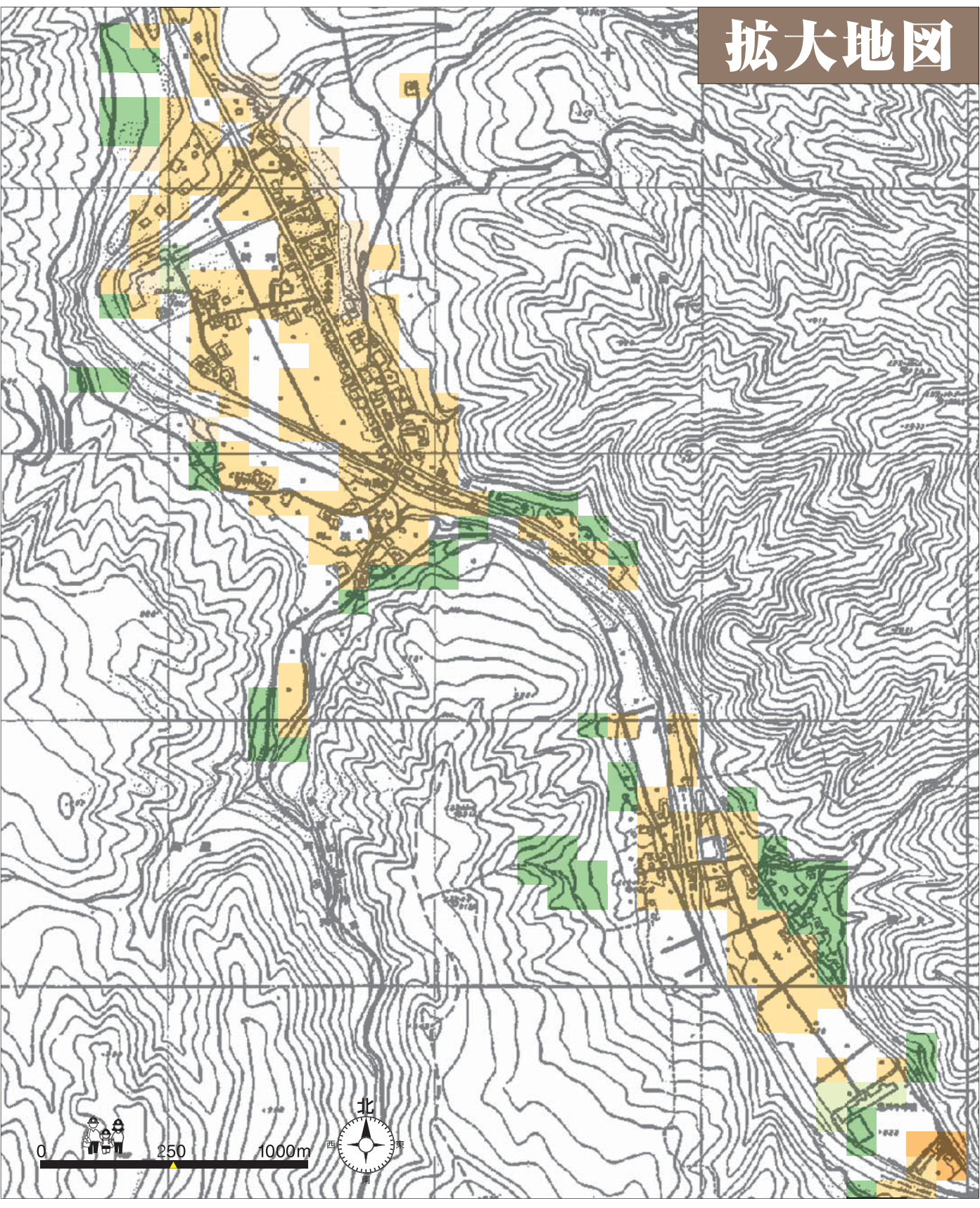
一次持ち出し品(例)

一次持ち出し品は大地震が発生して避難するとき、まず最初に持ち出すべきものです。

- 貴重品** 現金（10円があると公営電話利用に便利）、預金通帳、印鑑、免許証、保険証、権利証書など
- 非常食** カンパンや缶詰など火を通さなくても食べられるもの、缶切り、栓抜きも忘れずに
- 救急医薬品・常備薬** ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、持病のある人は常備薬など
- 懐中電燈** できれば1人1つ、予備電池も
- 携帯ラジオ** AM/FM両方聞けるものを、予備電池も
- タオル・下着・靴下など**
- 食糧** 米や簡単な調理で食べられる食品
- 飲料水** 1人1日3リットルが目安、ポリタンクなどに保存しておく。
- 燃料** 卓上コンロや固形燃料
- その他** ティッシュ、軍手、ロープ、マッチ、洗面用具、生理用品など
- その他** ●赤ちゃんがいる場合 粉ミルクやほ乳びん、離乳食、紙おむつなど
●お年寄りがいる場合 予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

二次持ち出し品(例)

大災害時に、組織的に救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自活できるようにしておきましょう。



清見地域

耐震診断・耐震補強工事の助成制度について

高山市では、地震に強い安全なまちづくりを目指すため、市内の建物所有者を対象とした「耐震診断」、「耐震補強工事」の助成制度を設けています。この制度を受けるには、要件がありますので、詳しくは高山市基盤整備部都市整備課までお問い合わせください。

住宅の耐震性について

地震における木造住宅の倒壊率は、古い住宅ほど高く、耐震壁の少なさやバランス配置の悪さ、老朽化等が倒壊の原因であるといわれています。特に、昭和56年5月31日以前に着工している場合や平面の形状が不整形な場合等では、耐震性が低い傾向にあります。心当たりがある方は、専門家による「耐震診断」を受けましょう。

家族防災会議を開きましょう

いざという時に家族があわてず行動できるよう、家族防災会議を開いて、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

- 家族一人ひとりの役割を決める
- 災害弱者の支援方法を決めておく
- 非常持ち出し品の準備とチェック
- 地震発生時の連絡方法を決めておく
- 避難場所と避難ルートの確認をする